

2024年3月24日（日）主日朝礼拝説教

『脇腹から出た血と水』井上隆晶牧師
ヨハネによる福音書 19 章 23～37 節

①【王として来られた方】

今日は棕櫚の主日です。棕櫚の葉を手にもって礼拝します。キリストはこの日、子供のロバに乗ってエルサレムに王として入場しました。「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者。高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って。」（ゼカリヤ 9：9）この預言の成就でした。群衆は最初は喜んで迎え入れましたが、すぐに手のひらを返したように、この王を見捨てました。ゼカリヤ書も福音書も明らかに、キリストが王であると告げています。

犯罪者の十字架の上には、その罪人を処刑する理由を書いた「罪状書き」を掲げるのが習慣でした。二人の犯罪人は「強盗殺人」と書かれたでしょうが、イエス様の罪状書きには「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書かれていました。祭司長や長老たちはイエス様を王として認めませんでした。処刑場は都に近く、過越しの祭りの時でしたから、多くのユダヤ人や外国人が都に集まっていたので、その罪状書きを読みました。「ユダヤ人の王」が処刑されるというのはただ事ではありませんから、外国人たちは驚きと疑問を抱きながらそれを読んだことでしょう。そしてそれは噂となって世界中に広まって行ったことでしょう。罪状書きはヘブライ語、ラテン語、ギリシャ語の三か国語で書かれていました。これは当時の世界を象徴しています。世界もあなたも、この十字架につけられた方を、王として受け入れるかどうか問われているのです。

②【四つに裂かれた上着】

23 節「兵士たちは…その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。そこで、『これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう』と話し合った。」死刑囚の着物は死刑執行人のものになることになっていました。彼らへの褒美です。上着は四つに分け、下着は一枚織りのものだったのでくじ引きをしたといいます。これは詩篇の 22：17～19「犬どもが私を取り囲み、さいなむ者が群がって私を囲み、獅子のように私の手足を砕く。骨が数えられる程になった私の体を彼らはさらしものにして眺め、わたしの着物を分け、衣を取ろうとしてくじを引く」の成就でした。恐ろしいほどの一致です。母マリアはどんな思いで、この情景を見ていたことでしょう。衣服は愛する息子の形見です。それを兵士たちが分捕り、くじ引きをして奪ってしまいました。ここから「聖衣」という 70 ミリの映画が出来ました。古代教会はこの箇所をこのように解釈しています。

●上着は裂かれたものとしてイエス様の人間性を象徴しており、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネという四人の弟子によって四つの福音書に記されました。しかし下着は裂かれないものとして主の神性を象徴しており、それは四つの福音書の中に流れています。主が神性の上に人間性を着たように、裂かれない下着の上に、裂かれる上着を着たのです。

イエス様の服の力をあなたは知っていますか。出血の止まらない婦人のことを思い出してください。この衣のすそに触れただけでも死は止まり、病は癒されました(ヨハネ5:27~28)。またこの衣のすそをイザヤは神殿で見ました。あなたは、今このキリストの衣を洗礼の時、着せられたのです。驚くべきことです。自分が何を着ているのか気づきましょう。

③【新しい神の家族の誕生】

26~27節「イエスは母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に『婦人よ、御覧なさい。あなたの子です』と言われた。それから弟子に言われた。『見なさい。あなたの母です。』その時から、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。」イエス様は母マリアに対して弟子のヨハネを「あなたの子です」といわれ、弟子のヨハネに対しては母マリアを「あなたの母です」と言われました。キリストの言葉によってここに血肉によらない霊的な「新しい家族」が誕生したのが分かります。キリストによって他人同士が一つに結ばれるのです。結婚式のような。十字架がすべての人間を新しい一つの家族にするのです。教会がなぜ「兄弟・姉妹」と呼ぶのかはそういう意味なのです。私たちも同じようにマリアを母と呼び、天の聖徒たちの家族になるのです。

④【血と水という財宝が流れ出た】

十字架につけられた人たちは普通7日ほど生きています。しかし翌日から過越祭が始まるので、祭司長たちは遺体をそのまま十字架上に掲げるにより祭りが汚されるのを恐れ、その日の内に殺すように犯罪者たちの足を折りました。足の骨を折られると体を支えられなくなって窒息死するからです。しかしイエス様のところに来ると既に死んでいたため足の骨は折りませんでした。これは「骨の一本も損なわれることのないように彼を守ってくださる」(詩篇34:21)の成就です。そこで兵士が本当に死んだかどうかを確認しようと思ってイエス様を槍で刺しました。「兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。するとすぐ血と水が流れ出た。」(34節)「彼らは、彼ら自らが刺し貫いた者である私を見つめ…」(ゼカリヤ12:10)の成就です。医学的にはわき腹から血と水が流れ出るというのは心臓破裂の症状です。心臓がもたなくなり細胞が破壊されて水になり、血と分かれて出たのです。ヨハネは医学的なことは分からなかったでしょうが、この現象を神の証しと解釈しました。

●4世紀コンスタンチノーブルのヨハンネス・クリュソストモスはこの箇所をこ

う説教しています。「この兵士はわき腹を刺し開き、聖なる神殿（イエス様）の壁に穴を開けました。そこで私は無比の財宝を見出し、輝かしい富を得ました。…わき腹から水と血が流れ出たのです。…この水と血は洗礼と聖体の秘蹟の象徴です。この二つから教会は生まれたのです。…アダムのわき腹から取られたものでエバを形造られたように、キリストはわき腹から流れ出たもので教会を形造られたのです。…」

逢坂元吉郎牧師は「血が底に入ってくることによってキリスト教は動かされないものとなった。」と言っていますが、私たちの体の中にも、毎週聖餐によってキリストの裂かれた体と血が入って来ることによって私たちも堅固にされてゆくのです。キリストの血が教会を建てるのですから、キリストのものを入れなければ、教会は立たないのです。

朝の祈りをしている気づいた事があります。イエス様というお方は、一本筋が通っておられるということです。神を信じて決してぶれません。地上でどんなに苦しめられても神の子であり続け、天上の香りを放ち続けました。彼は全く変わりませんでした。天国は、天使たちが神を讃える聖なる場所です。天と地は全く違うのです。多くの人は皆、地上のものしか見ません。ロシアのクラスター爆弾の話の聞きました。それは一つが 300 個以上に炸裂して爆発します。逃げられるものではありません。バタフライ地雷という小さな地雷は小指を飛ばします。子どもがオモチャだと思って触るので犠牲になります。そうやって戦意を失わせるのです。人間のやる事ではありません。悪魔の業です。プーチンもキリスト教徒です。礼拝をし、洗礼を受けているからと言って、本当のキリスト教徒とは限りません。地上のことしか考えず、天の神を主人とせず、神を恐れなければ、キリスト教徒とは言えません。人は変わりません。人間というものに絶望します。人が救われるとしたら神によるのです。人間の力では無理です。地に属する人間が天に属する人になるためには、神が介入され、人に現れ、信仰を与えなければ人は目が覚めません。モーセもパウロもそうでした。一瞬で変わりました。地に属する人は地と共に必ず滅びます。しかし天に属する人は、天使の香りを放ち、天に興味があり、永遠に残るものを考えます。悪魔になるか、天使になるかどちらかしかないのです。神の前に立った時に恥ずかしい思いをしないようにしましょう。イエス様が天と地の梯子になってくださったのです。天が地に降って来てくれたからです。私たちは地上で天を見、天に属することができるようになったのです。キリストを見ましょう。天の人を見ましょう。そして私たちも天を目指して歩みましょう。